

高校と地域との連携・協働体制構築事業 事業計画の概要

取組地域	各校の事業計画の概要
糸魚川市と糸魚川高校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域人材を活用した自習室の運営 ・ 県外高校との探究交流
糸魚川市と糸魚川白嶺高校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災先進校やジオパーク関係校との交流を開始、糸魚川市と連携して白嶺防災フォーラムを開催
胎内市と中条高校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域連携学習支援員を活用した中条高校地域アカデミーを構築 ・ 大学生が高校生の探究活動のメンターとして活躍
長岡市と長岡向陵高校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合的な探究の時間等において、地元自治体や大学・企業等との連携を図り、生徒が社会課題に関して主体的に探究活動を進められる伴走体制を構築
NPO法人と十日町高校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 十日町エリア4校が合同で探究活動を実施する「ゆきぐに探究委員会」を組織 ・ 地域おこし協力隊が活動全体のコーディネーターとして活躍
NPO法人と佐渡総合高校	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO法人と連携して、高校の探究活動の充実や専門人材を育成 ・ NPO法人から高校の探究活動や講演会への支援

県立糸魚川高等学校の事業構想

地域を知り、己を知る

～糸魚川市との協働による高校魅力化プロジェクト～

1 取組の背景や目的

当校は、令和元年から3カ年、文部科学省より「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」のアソシエイト校に認定された。これを受け、総合的な探究の時間では、スクールミッションに基づき、1、2学年は糸魚川市と協働し、地域の課題解決に取り組み、探究活動をとおしてグローバルな視点を培い、地域への愛着心を醸成し、社会に貢献できる人材を育成する。

2 実施体制や2年間の取組の概要

校長、教頭、および各学年代表らで構成する「総合的探究委員会」を編成し、市教委所属の「高校魅力化コーディネーター」と連携し、探究学習を通じた地域との協働活動を充実させる。また、個に応じた学習指導、キャリア教育の充実を図り、学力の向上に努めるとともに、主体的に進路実現に取り組む資質や能力を育てる。

県立糸魚川高等学校の事業構想

地域を知り、己を知る

～糸魚川市との協働による高校魅力化プロジェクト～

3 R6年度 of 取組内容と評価について

- ・ 地域内外の人材を活用して、糸魚川市の活性化に関する新たな気付きを得るとともに地域貢献の志を育む。
- ・ 有識者や内外で活躍する地域出身者、地域外の高校生との交流をとおして、糸魚川市の魅力に対する外部からの気付きを得るとともに、対話力や他者との協働力を育む。
- ・ 総合的な探究の時間のみならず、教科横断的な探究学習をとおして、思考力や判断力を育成し、自己の進路を探究する力や進路実現のために必要な学力を養う。

県立糸魚川白嶺高等学校の事業構想

1 取組の背景

1年次「産業社会と人間」、2・3年次「白嶺タイム（総合的な探究の時間）」で本校は地域理解探究学習を展開している。その中で、地元就職の多い本校にとって、地域で活躍する人材の育成が求められている。

平成28年に発生した糸魚川駅北大火後に防災・減災教育を柱にした地域理解探究学習を展開しているなかで、糸魚川市をはじめとする地域との連携が必要不可欠である。また、令和3年に糸魚川ジオパーク協議会との連携協定を締結し、さらなる地域理解（ジオパーク）探究学習の充実化を図ることが必要がある。

2 取組の目的

白嶺防災フォーラムを柱にした防災・減災教育に関する地域との連携の充実
地域理解（ジオパーク）探究学習における県外の学校や地域との協働学習による、地域で将来活躍できる人材の育成

3 実施体制

校内：進路指導部探究学習運営係（窓口・企画）－各年次（教職員）

校外：糸魚川市教育委員会こども課高校魅力化コーディネーター（4名、地域おこし協力隊）、糸魚川ジオパーク協議会、フォッサマグナミュージアム学芸員、消防本部（防災関係部門）、その他市内外の関係機関

県立糸魚川白嶺高等学校の事業構想

4 2年間の取り組みの概要

(1) 白嶺防災フォーラムの開催

コロナ禍以降、オンラインによる開催であり、直接交流ができなかった。通信環境が良くて音が途切れたりすることで、うまく意思疎通ができない部分も問題点として挙がっている。今回は県外校を招待することでリアルな交流ができ、フォーラムも活発になると考えられる。また、今後の費用の問題で再びオンライン開催になったときにマイク・音声などの通信環境の整備も急務になっているため、民間との協働により、整備することも含む。

(2) さまざまな校外行事での情報発信と校内での情報共有

これまで、復興宇宙サミットや日本ジオパーク全国大会など、本校の探究学習活動について発表を行ってきた。今年度は、発表の内容などを高校魅力化コーディネーターやジオパーク協議会の方々から指導助言をいただく。また、報告会の実施により生徒・教職員や地域の方々との情報共有を図る。

5 令和6年度の取組内容と評価について

令和6年度は、糸魚川市高校魅力化コーディネーター、糸魚川ジオパーク協議会の方々から指導助言をいただき、次の点において取り組む。

- ・白嶺防災フォーラムのリアル交流による開催
 - ・復興宇宙サミットや日本ジオパーク全国大会、高知県立室戸高校訪問における発表・報告
- これらの取り組み内容に対して、本年度は以下のような評価を行う。

R 6

地元自治体（糸魚川市）や糸魚川市ジオパーク協議会の協力により、生徒が、防災・減災に関する事項をはじめとする地域理解における探究学習を通して県外の交流校に適切に情報を発信することができたか。

新潟県立中条高等学校の事業構想

事業の背景

- 胎内市内唯一の県立高校である本校が地域に欠かせない存在であること。
- 胎内市において少子高齢化が加速しており、地域経済を担う人材育成が必要であること。

事業の目的

- これまでの取組に大学の協力を加え、大学・地域・企業総がかりで行う探究学習を実現する。
- 大学・地域団体・地元企業等と連携したコンソーシアムを作り、本校が地域振興の核となる体制を構築する。

【事業の実施体制】

目指す生徒像：「恕」の心を持ち
主体的に社会貢献できる人

「恕」

思いやりの心

「基礎力」 「発想力」 「共生力」
「協働力」 「実践力」 「発信力」

六花プラン（中条高校で育成する6つの力）

【2年間の取組内容】

- ・大学（教員・大学生）・地元企業・胎内市と教科が連携して探究する「中条高校地域アカデミー」を設置し、地域理解・地域貢献の取組を推進し、上級学校への意識を高め志願者数の増加につなげる。
- ・コンソーシアムを立ち上げ、大学や地元企業が継続して中条高校の探究学習に関わる体制を構築する。

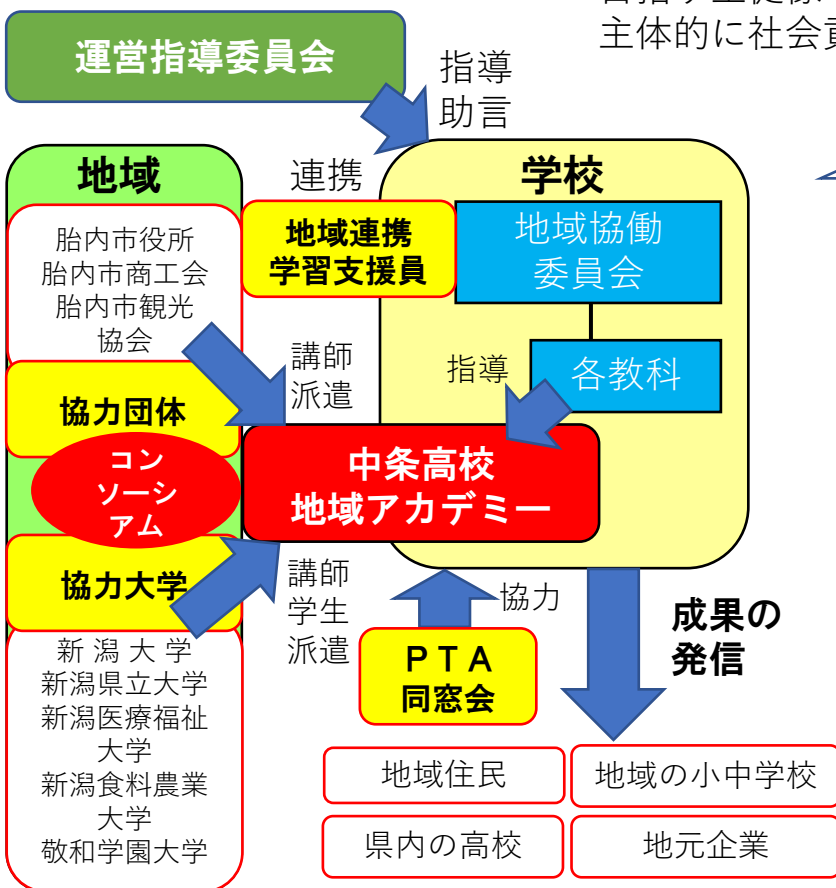
【令和6年度の取組内容】

- ・広島県立油木高校、山梨県立笛吹高校と本校の遠隔交流を実施
- ・2年生が「学生居場所カフェ」を運営

4月と1月にアンケート実施

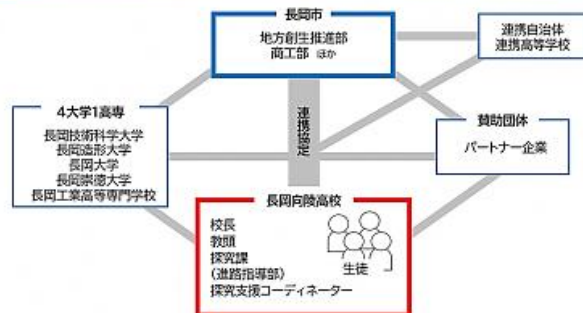
【評価方法】

- ・生徒が「自分の行動で地域や社会を変えられると思う」という回答が6割以上、地元企業・店舗100社に対するアンケート調査で、「中条高校生が地域に出て活動を行っていることを知っている」と回答する割合が7割以上になるように取組をすすめる。



県立長岡向陵高等学校の事業構想

連携の大枠



長岡向陵高校	長岡市
産官学連携による探究学習	若者の人材育成
未来の人材育成に向けた教育	人口の減少、人手不足
まちづくり・観光振興に関する学び	地域の魅力発信・観光振興
環境および防災に関する課題解決学習	安全安心に暮らせるまちづくり

長岡市と長岡向陵高校の探究における連携

長岡向陵の「総合的な探究の時間」

1年	2年	3年
<p>探究の基礎を学び ミッション探究に挑む</p> <p>産官学からの ミッションを グループで探究</p>	<p>長岡市の課題に ミライの自分ごととして 取り組む</p> <p>長岡の多様な課題をテーマに 市と連携しながら 大学、企業の協力を得て よりアクションを伴った課題 探究</p>	<p>これまでの 取り組みをもとに 進路探究</p> <p>自身のアイデンティティー 課題探究での気づきの 思考・表現</p>

連携の具体例

- 1 学年** 5～9月：身近な課題の解決（探究の基礎）
10～3月：8分野の企業・大学等からのミッショングループ探究
- 2 学年** 長岡市からの課題について、課題探究
- 3 学年** 1・2年の探究学習での学びや経験をふまえて進路実現に向けた進路探究
進路希望実現に向けて自分のやりたいこと、学修したいことを深めていく進路探究

1年生	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡市より主題を提示 ・担当者の指導や講評のもとで協働学習を実施
2年生	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡市の多様な課題を大枠に、市の担当者からの説明および支援によりテーマ設定 ・大学および企業の協力を得て、課題探究の推進
3年生	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望達成に向けて取り組む生徒をサポート ・志望理由書、研究テーマに関するリサーチ支援等 ・進学センターとしてのミライエ長岡の活用
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ミライエ長岡の利用（交流会・講習会・探究発表会・市内企業説明会） ・校外活動（施設・企業等訪問）への支援 ・協働によるイベントの企画運営 ・連携協議会による連携の確認と推進

越後妻有地域連携ネットワーク校の事業構想

テーマ1 学校と地域の連携・協働体制構築！

テーマ2 学校間の連携体制構築！

☆「**にいがた圏**」を中心とした体制づくり

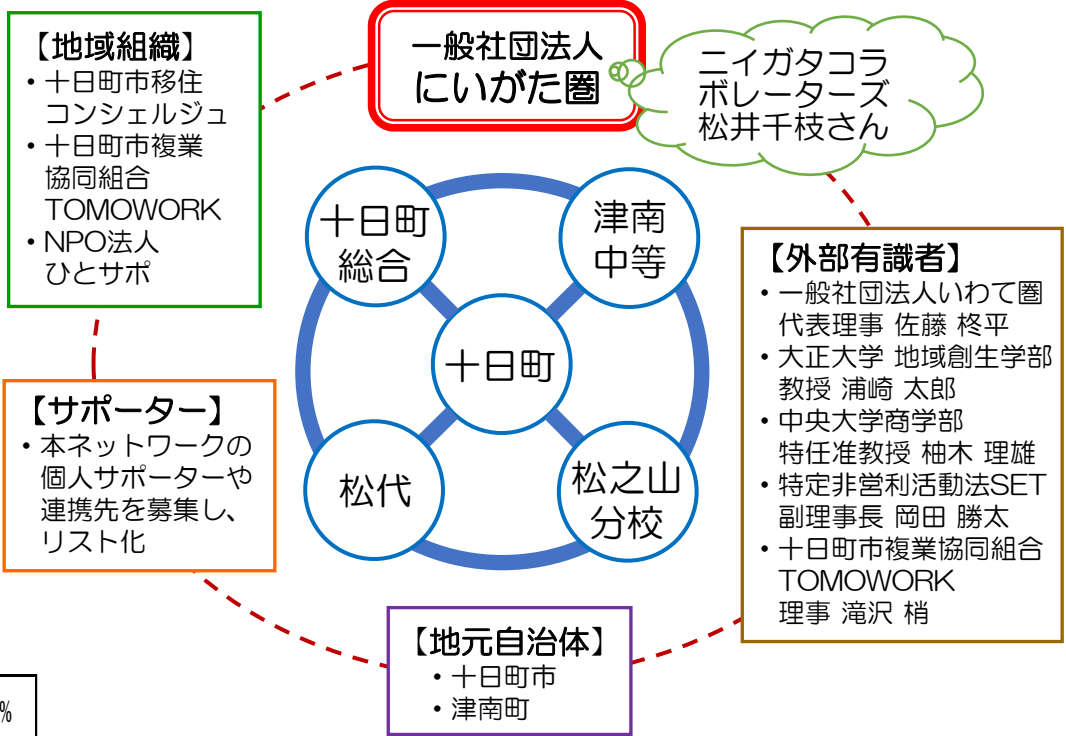
- 越後妻有地域の県立高校等5校と、地元自治体、地域組織、外部有識者、サポーター等との連携・協働体制について、「にいがた圏」が有するネットワークを活用しながら構築

☆**地域コーディネーター**を活用した体制づくり

- ニイガタコラボレーターズ松井千枝さんにコーディネートしていただきながら、月2回の「探究学習指導」、夏休みの「生徒交流会」、年度末の「合同探究発表会」などを実施

【ネットワーク校の課題】

- 活動の目的に応じた連携先の開拓
- 各学校における連携活動の情報共有
- 生徒主体の探究活動
- 特に小規模校において生徒どうしの交流が重要
- 個別の学校との連携における地域の負担
- 意識調査の「地域連携」に関わる項目の肯定的回答を高めることが必要



【R6の取組】

- 各校の地域連携活動の情報共有と新規連携先の開拓
- 代表生徒による探究学習委員会
- 生徒交流会の実施
- 各校探究学習担当教員の交流研修
- 合同探究学習発表会の実施
- R7のネットワーク構築に向けた調整、連携先のリスト化

【R6の目標】

- 左記3項目それぞれ5%増加

<ネットワーク校1・2年生>

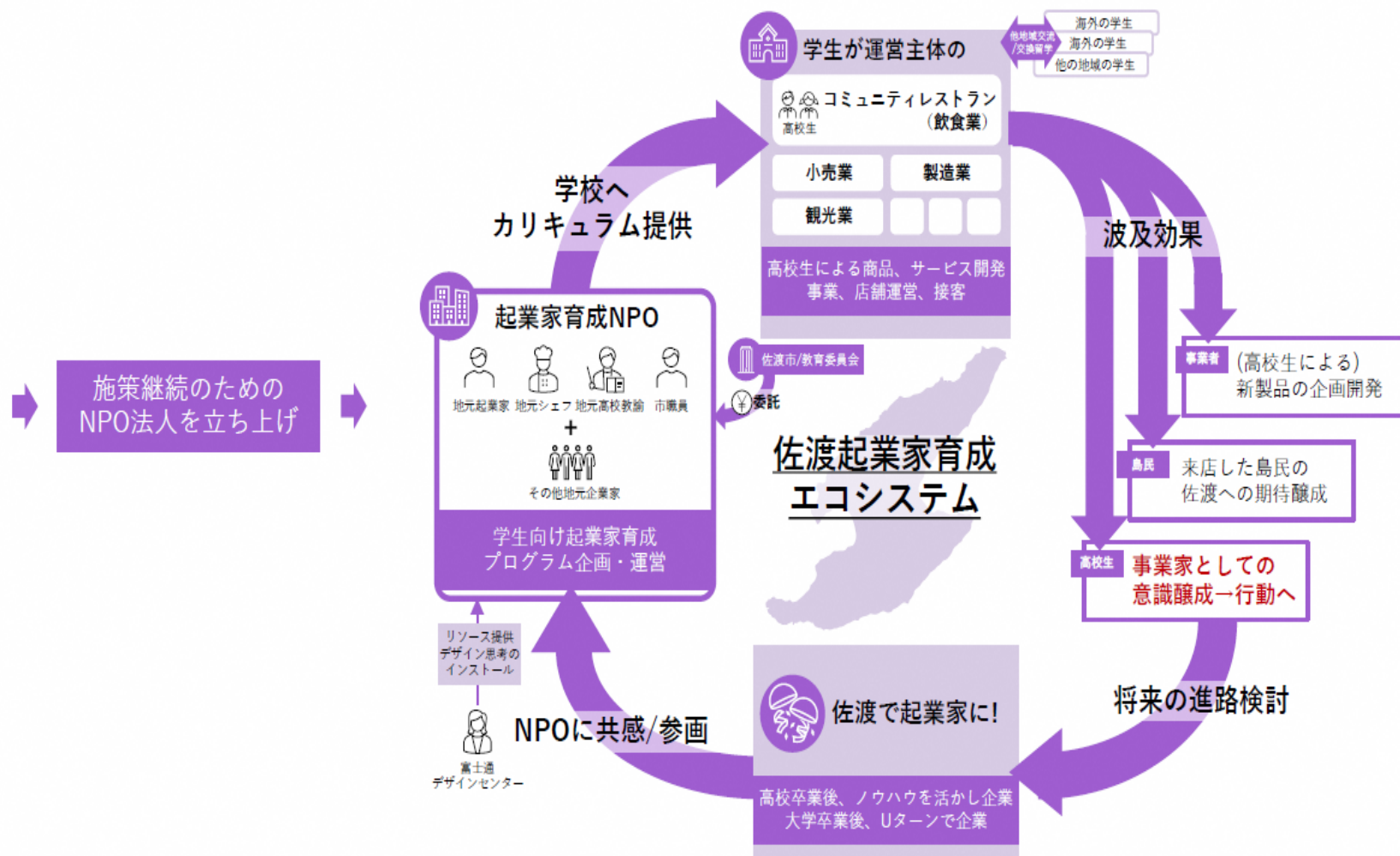
学校での地域活動が自分の成長につながった	81.9%
地域学習により地域への興味・関心が高まった	76.2%
自分の生まれ育った地域に将来貢献したい	75.7%

越後妻有地域連携ネットワーク

佐渡総合高等学校の事業構想



コミュニティレストラン施策を佐渡市に根付かせ、自律性の醸成を継続する佐渡起業家育成エコシステム



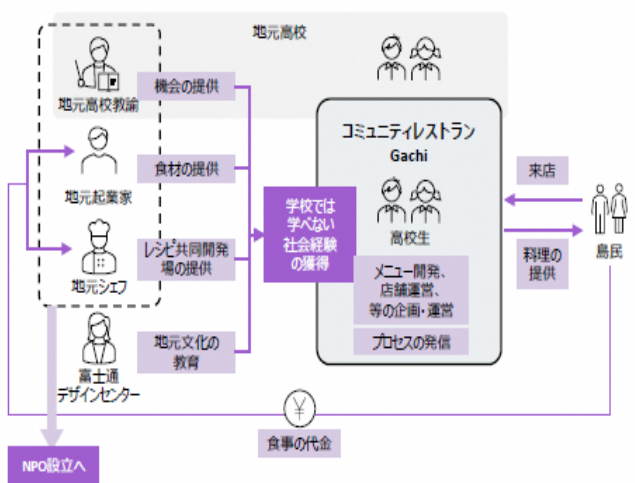
佐渡総合高等学校の事業構想

コミュニティレストラン施策を佐渡市に根付かせ、自律性の醸成を継続する佐渡起業家育成エコシステム

施策継続のためのNPO法人を立ち上げ



今回の実証イベント



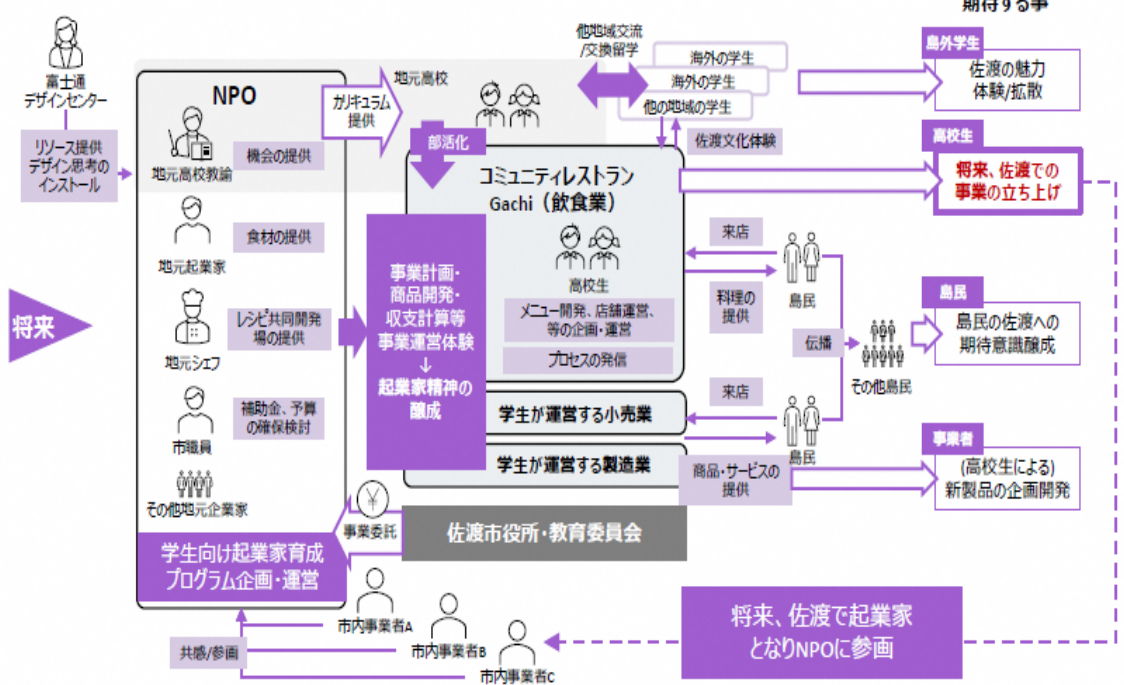
良かった点

- ・ 短期間で実証イベントを立ち上げ実践
- ・ 参加者の一定の意識向上が見られた

検討すべきポイント

- ・ 企画、主催側の費用の負担が大きい
- ・ 市職員の関与度が低い（市長様の期待）
- ・ 学生の部活や授業との位置づけや調整
- ・ 単なる職業体験で終わらせないために
- ・ 来店客となる島民の方々への

将来構想 = エコシステム化



チャレンジ：部活動 → 学生向け起業家育成プログラム企画運営事業へ

- ・ NPOを設立し、市の委託事業として高校生向け起業家精神醸成のためのカリキュラムを提供、プログラム運営
- ・ 市内事業者、市職員を巻き込み、各種特産を活用した事業体験プログラムを企画し、ファシリテーションとデザイン思考を実践
- ・ 学生は商品開発や収支計算等、職業ではなく事業運営を体験することで、「将来佐渡島での起業をめざす起業家のたまご」を育成
- ・ 佐渡市内の高校生だけでなく、交換留学的に他地域や海外の学生を取り込み、佐渡市の魅力を体験してもらう
- ・ 学生が市内事業者の事業に参画することで、新製品等、新たな魅力の創出も期待
- ・ 学生が島の魅力を活用し事業を行う姿から、島民の「島への可能性」の意識醸成

詳細版